

編集後記

○ 編集後記は発行が久しくしたことの言訳で、はらう前の二十号まで、この間にある十六九号を、二十号までの後記を、この間にある十六九号の編集会議で、今度の刊行体制をたて、検討したいと考へてはいる。

○ 本号が、六月十日、各新聞に大むく報道、か、たが、神、港、の、故、事、に、よ、る、二、名、死、亡、十、人、が、重、傷、と、い、う、大、惨、事、で、あ、る。

○ 資源小国といわれ、日米は、飼料の、故、は、大豆、粕、が、主、で、あ、る。日、米、は、飼、料、の、酸、を、吸、収、し、し、炭、酸、ガ、ス、を、放、出、し、た、の、が、原因、だ。

○ 輸入飼料には、魚粉、骨粉、が、あ、る。飼、料、は、黒、鉛、の、毒、で、あ、る。ス、ワ、ラ、ッ、コ、ラ、ナ、イ、ヤ、マ、グ、ッ、ト、な、ど、機、械、化、で、こ、の、

仕事が、忙しくなつて、この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。

○ 港、の、故、事、に、よ、る、二、名、死、亡、十、人、が、重、傷、と、い、う、大、惨、事、で、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。

○ 和歌山、の、故、事、に、よ、る、二、名、死、亡、十、人、が、重、傷、と、い、う、大、惨、事、で、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。

○ 果物の、店、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。この、間、は、船、員、の、死、亡、が、あ、る。

《労働者渡世》 第二十一号

一九七七年六月十五日発行

労働者渡世編集委員会

大阪市西成区秋之茶屋三三六〇十五
笠ヶ崎生協 気付